

News

No.136
2016/05/01

学生の成長と輝き



■サレジオ高専News

校長メッセージ

第7回 大学コンソーシアム八王子学生発表会 受賞報告

副校長メッセージ・事務長メッセージ

第11回ソーラーバイクレース2015 in 浜松」3部門優勝、三冠の快挙と地域紙・雑誌からの取材

陸上競技部戦績報告・小山礼央さん受賞報告

デザイン学科 佐藤 愛さん「Next Eco Design 展 2015」最優秀賞を受賞報告

バックナンバーのお知らせ

■育英学院同窓会報

サレジオ同窓会 世界連合 ローマ大会報告

SHCD2015にて世界大会について報告

2016.10サレジオ同窓会アジア連合 東ティモール大会準備会合報告

サレジオ同窓会 日本連合関連報告

2015年度 専攻科修了式・本科卒業式挙行

SHCD2015スナップ

グラフィックの会 勉強会報告

高専24期デザインクラス会

第10回育英ファミリーの集い

満部修師帰天

■父母会だより

第48期卒業生保護者の声

イベント等の報告・プロジェクト活動紹介

S.ALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人・・・校長:小島 知博
編集長・・・教員:山館 順
Design・・・広報:星野 正登



- 学生の成長は我々の誇りです -

毎年、育英祭には多くの卒業生が本校に帰ってきます。卒業生の姿を見て、彼らの話を聞くことは育英祭の楽しみのひとつです。校長の就任を受けて8年が経過し、最近では卒業生の記憶があいまいになり、彼らとの会話のなかで彼らとは違う学年の話をするなど私の中で混乱が生じています。いずれにしても卒業生との再会はうれしいものです。当然のことではありますが、学生のころの印象とは全く異なる大人に成長していて、対話の内容に彼らの成長を見ると同時に驚きを感じることがあります。驚きはたいがい仕事の話のときに起こります。社会人として活躍している話を聞いているときに、「あのときのあの学生がこんな話をするのか」と。卒業生の成長は喜びです。

また卒業生が結婚して子どもを連れて校長室をたずねて来るときに感心させられることがあります。母親になった人は育児でいろいろと体験を積んでいるのか“お母さん”という雰囲気を出しています。父親になった人は年齢にもよりますが、特に小さなお子さんを抱き上げる姿、その光景を見ていると“お父さん”なんだと実感させられます。家族とともに生きる彼らの姿に新しい人生のステージに進んだのだと頼もしく感じます。

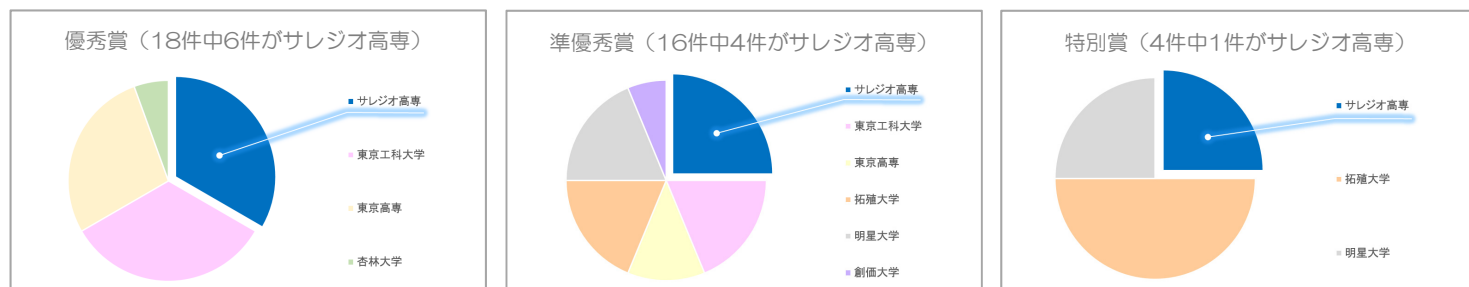
毎年3月の最終土曜日に「桜の会」という卒業生たちの花見の会が開催されます。私も学校の代表ということで「桜の会」に参加させてもらっています。ここでは工業高校時代の方や高専の初期の方から最近の高専卒業生の方まで幅広い年齢層の卒業生が花見を楽しんでいます。いろいろな方とお話しをさせていただきますが、実に卒業生の方々はさまざまな分野で活躍されていることがわかります。自ら会社を立ち上げた方々もいます。何よりも学生時代の楽しい思い出をたくさんもって本校に親しみを感じてくださっていることがうれしいことです。これからも本校を巣立っていく学生たちが出てきます。彼らが社会の中で活躍し、サレジオ高専の学生であったことを誇りに感じてもらえる学校になり続けたいと思います。



サレジオ工業高等専門学校
学校長 小島 知博

- 第7回 大学コンソーシアム八王子学生発表会 受賞報告 -

2015年12月5日（土）・6日（日）に八王子市学園都市センターにおいて開催された「第7回 大学コンソーシアム八王子 学生発表会 産業提案部門」において本校の学生達が多くの大学や国立高専と競い合い非常に優秀な成績を修めました



区分	優秀賞	準優秀賞	特別賞	受賞計
サレジオ高専	6	4	1	11
東京工科大学	6	3	0	9
東京高専	5	2	0	7
拓殖大学	0	3	2	5
明星大学	0	3	1	4
杏林大学	1	0	0	1
創価大学	0	1	0	1
賞の総枠	18	16	4	38
サレジオ高専の占める割合	33.3%	25.0%	25.0%	28.9%

「学生発表会」は、八王子地域の大学等の学生が、幅広い分野の研究成果やアイデアを市民や企業の前で発表するもので、今年は、13校の大学、短大、高専から145団体が発表を行い、大学教員や企業関係者等の審査による優秀賞21件、準優秀賞20件、特別賞1件、中高生審査員による特別賞4件が決定し、石森孝志市長並びに大学コンソーシアム八王子の軽部征夫会長、産学公連携部会の小浦晴実副部長より表彰されました。

(<http://www.gakuen-hachioji.jp/report/10043/>より引用)

文責：学校広報室長 星野正登

賞	発表部門	サレジオ高専 研究室名	学生名	テーマ
優秀賞	産業提案部門(口頭)	産業応用研究室	岩下 真輝 (イワシタ マサキ)	電力消費がない感熱弁を用いた自動散水によるPVモジュールの発電量向上に関する検討
	産業提案部門(口頭)	電子通信研究室	久保田 健太郎 (クボタ ケンタロウ)	マグネシウム発電の特性を活かしたセンサー駆動の検討
	産業提案部門(口頭)	生活創成研究室	高橋 怜亜 (タカハシ レア)	子どもの体力向上に繋がる環境
	産業提案部門(口頭)	環境計測研究室	葛本 雅之 (クズモト マサユキ)	VLF帯空電計測システムの特性評価
	産業提案部門(ポスター)	産業応用研究室	丸山 諒 (マルヤマ リョウ)	浮力低減プレートを用いた高周波騒音低減法の提案
	産業提案部門(展示)	生活創成研究室	武内 彩夜乃 (タケウチ サヤノ)	身だしなみを整えることによる心の快復
準優秀賞	産業提案部門(口頭)	産業応用研究室	中川 将嘉 (ナカガワ マサヨシ)	IH調理器使用時に電源高調波が高調波騒音・振動に与える影響
	産業提案部門(口頭)	産業応用研究室	福井 直生 (フクイ ナオキ)	PVモジュールにおける降灰対策の検討
	産業提案部門(ポスター)	産業応用研究室	土屋 樹生 (ツチヤ シゲキ)	缶飲料誘導加熱装置における共振周波数の変化と加熱効率の解明
	産業提案部門(ポスター)	ビジュアルコミュニケーション研究室	澤田 萌 (サワタ モエ)	造花の新しい提案
特別賞	産業提案部門(ポスター)	産業応用研究室	山口 圭 (ヤマグチ ケイ)	自動散水システムによるPVモジュールの発電量向上に関する検討

時代とともに変わる技術者への要求能力

私が就職したばかりの今から40年ほど前は、アメリカやヨーロッパですでに開発されたものを日本の企業がより品質の良いもの、より安いものに改良し、大量生産して世界中に売るというスタイルが日本のものづくりでした。メイドインジャパン製品が世界を席巻して、日本にはどんどん世界中からお金が入り、アメリカに次ぐ世界第2位の金持ち国となりました。この時代に必要な能力は、製品を改良する能力、効率よくものを作る能力でした。

時代が進み、大量生産で人々にものが行き渡るようになると、次に人は他人とは異なるものを欲しがるようになります。こうなると、従来のように同じものだけをたくさん作ればよいという考え方は通用しなくなりました。この時代に必要な能力は、新しいものを発想し、それを実際に作り上げる実現力でした。

さらに時代が進み最近では、中国や東南アジアなど労働力の安い国において製造業が盛んになり、値段の高い日本製品はなかなか売れなくなってきました。



また人の好みも目まぐるしく変わり、製品の寿命がどんどん短くなってきました。このような時代には、短期間で製品化し安価で早く売り出すマネジメント能力が要求されます。

日本は石油や鉱物など天然資源の少ない国です。外国から資源を輸入し、それを加工してものを作り、工業製品を輸出して外貨を稼ぐことによってしか経済が成り立たない国です。これは、昔も今も、また将来も変わらないことと思います。

そんな中で今の技術者に要求される能力は、発想力と実現力およびマネジメント能力です。

これら3つの能力は別々のものではなく、融合されて初めて優れた技術者になれるものだと思います。そのためには、勉強以外にもいろんな事にチャレンジして下さい。



サレジオ工業高等専門学校
平成27年度 副校長 平岡 一則

人生の春夏秋冬

日本の気候には四季があります。

春夏秋冬は人間を鍛え、冬の厳しさの次に訪れる春の到来の喜びを教えてください。

厳しい冬を乗り越え、待ちに待った春を迎える暮らしの中で、日本人の「勤勉さ」や「粘り強さ」が育まれていると思います。

実際、常夏の国々では、恵まれた自然のために、

逆境に打ち勝って成功するという「人生観」を持つ人は少ないようです。

南の島々は住むには適しているが、あるいは遊びに行くには面白くて良いかもしれないが、春の訪れの喜びを知ることは難しいと思われます。

そして逆境に耐えることも避けたくないのも分かります。



このことは、人生全般にも当てはめることもできます。

いつも春や夏であれば、人生も喜びを感じる度合いは少なくなります。

難しい逆境を経験しなければ、成功の喜びや感動もそれほど大きなものではなく、成功への意欲も減っていくことでしょう。

生きる大変さ、そして「人生の春夏秋冬」を味わうことが、私たちの真の喜びにつながることを自覚したいところです。

冬がなければ、春の訪れはそれほど喜ばれるものではない。
逆境を経験しなければ、成功もそれほど嬉しいものではない。
「人生にも春夏秋冬がある」ということで寄稿しました。

それでは皆様、今日も一日笑顔で過ごしましょう。

サレジオ工業高等専門学校
事務長 高橋 孝



機械電子工学科の学科プロジェクトチームが
「第11回ソーラーバイクレース2015 in 浜松」に出場し3つの部門で優勝し、三冠の快挙を達成しました



「第11回ソーラーバイクレース2015 in 浜松」とは

この大会は、国土交通省の定める車両サイズと2kwhのバッテリーを最大容量とするバイクに、各ピット300Wのソーラーパネルより電気（太陽光エネルギー）を供給しエコレースを行うものです。また、ソーラーパネルは車両の規定寸法に入れば100W以下まで搭載することが可能です。現地では、大会から提供されたソーラーパネルを各自で配線してバッテリー充電を行いました。さらに車載したソーラーパネルは、走行時や休憩時などすべての時間で常時充電をしてエネルギーを蓄えました。競技種目は「6時間耐久レース」「スプリントレース」「フリースタイル競技」があり、朝から夜（ナイトレース）まで行われました。



今年の浜松ソーラーバイクの製作は、授業以外にモノづくりを経験したことがない4人でスタートしました。初めて自分たちでマシンを製作するため、進め方もよく分からず、大会までに完成するか不安を抱えていましたが、多くの人に支えられて完成することができました。大会に参戦した結果、3つの部門で優勝という三冠を勝ち取ることができ、感無量の思いです。私たちが出した無理難題のアイデアを具現化する指導をいただいた米盛先生、様々な技術を教えてくれた諸先輩、そして、私に付いてきてくれたメンバーの皆、ありがとうございました。

私は、元々、専門科目などが得意ではなく、むしろ苦手でした。そんな自分ではプロジェクトができないと思っていました。しかし、実際にプロジェクトをやってみると専門知識等が浅くても、最後までやり遂げられました。もちろん、活動の中で勉強しなければならない場面がたくさんありました。しかし、モノを作る中で必要になる勉強は今まで受けてきた座学と印象が違い、とても楽しく、達成感があるものでした。是非、まだプロジェクトをやったことのない人にも、参加してほしいと思います。そして、この気持ちや経験を次の代に伝えていきたいです。

サレジオ工業高等専門学校
機械電子工学科 3年 稲川 遼

機械電子工学科の学科プロジェクト「第11回ソーラーバイクレース2015 in 浜松」での三冠が
タウンニュース（地域紙）やタンデムスタイル（雑誌）にも掲載されました

3輪クラスの参加もオモシロいぞ!

サレジオ高専



サレジオ高専のマシンは、縦3輪とユニーク。ハンドルの動きにあわせて、後輪が前輪とは逆向きに動くので、小まわりが利くそうだ。世の中になかったマシンをコンセプトに、廃材で作った!? 企業へのスポンサー集めも学びの1つ...と、担当の米盛先生



3輪のエコソーラーバイク「PW2」で参
加する福川選手（サレジオ高専）と
指導教員の米盛先生

ソーラーバイク
エコレースで優勝する技術力養う
サレジオ高専の学科プロジェクト

サレジオ工業高等専門学校（小高知校）の学科プロジェクトは、3年生を中心に行われ、機械電子学科3年生の福川選手が、ソーラーバイク「PW2」で参
加する福川選手（サレジオ高専）と指導教員の米盛先生



福川選手（左）と指導教員の米盛先生（右）

間や先輩と協力して、完成した。大会終了後、福川選手は、大会で優勝した。福川選手は、大会で優勝した。福川選手は、大会で優勝した。

写真左（タンデムスタイルNo.163掲載記事）

写真右（タウンニュース2015/12/24号掲載記事）



↑ サレジオ高専内でタウンニュースの記者の方から取材を受ける様子

この取材についてはタウンニュースWeb版↓でも紹介されています
(<http://www.townnews.co.jp/0304/2015/12/24/313534.html>)

この度、3輪部門の「6時間耐久レース」「スプリントレース」「総合」で優勝という三冠の快挙を達成することができ、現役学生・卒業生・教員共々、大変喜んでおります。そしてそれが様々なメディアからも取材されたことも大変喜ばしいことであると思います。

機械電子工学科の学科プロジェクトとして、ソーラーバイクレース in 浜松へ参加を始めたのは学科名称変更後の2010年です。毎年、学生の様々なアイデアや「こんなのを作ってみたい!」という興味・好奇心を具現化しながら大会へ参加をしてきました。今回は、車輪を縦に3つ配置するという今までにない斬新な構造を発案し、会場で大きな注目を浴びました。製作したマシンは、我々が期待した性能を発揮することができ、優位にレース展開を進めることができました。

今回参加した学生たちは、既に次年度に向けたマシン構想や他のモノづくりの発案を始めており、三冠優勝という一つの成功体験を基に今後さらに大きく羽ばたいてくれることでしょう。最後になりますが、本活動にご理解・ご協力をいただいている皆様はこの場を借りて感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

サレジオ工業高等専門学校
機械電子工学科 准教授 米盛 弘信



「第50回全国高専大会 陸上競技」で優秀な成績を残した 5年機械電子工学科 小山礼央さんと陸上競技部について



移転後の主な成績（各大会出場者。カッコ内は種目数）					
年度	全国高専	I H 関東大会	I H 都大会	関東新人	都高校新人
H17	2 (2)	0	0	0	0
H18	3 (4)	0	0	0	0
H19	2 (2)	0	1 (1)	0	1 (1)
H20	3 (4)	0	1 (2)	0	4 (7)
H21	4 (6)	0	5 (11)	1 (2)	3 (6)
H22	5 (8)	1 (1)	4 (6)	0	1 (1)
H23	6 (8)	0	2 (2)	0	1 (2)
H24	4 (6)	0	1 (1)	0	2 (3)
H25	3 (5)	1 (1)	2 (3)	0	1 (2)
H26	2 (3)	0	0	0	0
H27	1 (2)	0	0	0	1 (2)

【 その他実績 】

- 全国高専大会
女子800m特別表彰（H21,22,24優勝）
全国高専記録（女子400mH）
- 関東信越地区高専大会
女子800m特別表彰（H21,22,23,24優勝）
男子砲丸投特別表彰（H24,25,26,27優勝）
関東信越地区記録（男子砲丸投、女子400m、400mH）
- 関東学生陸上選手権出場（標準記録突破）
- 関東学生新人出場（標準記録突破）

※全国高専大会は関東信越地区大会で各種目3位まで
※高校総体（IH）は支部予選8位以内→都大会6位以内→関東大会
※高校新人は支部予選8位以内→都大会3位以内→関東大会



福岡県博多市で開催された全国高専大会において、小山礼央君（5ME）が円盤投で銅メダルを獲得しました。変わりやすい天候の中で各選手が苦戦する中、力と経験を十分に発揮しました。翌日の砲丸投は、逆にハイレベルな戦いとなりましたが、彼も関東信越地区記録を更新して5位入賞と有終の美を飾りました。

小山君は2年生まで大事な試合で失敗することが多く、顧問として歯がゆい学生でした。しかし、3年次に都高校総体の円盤投決勝において強豪校の生徒と戦い、6位入賞して関東大会を決めた試合が分岐点となりました。その後は、学業・研究・就職活動との両立を努力し、且つ結果が出せるようになりました。特に就職活動と卒業研究が始まった5年次における関東インカレ出場と全国高専大会のメダル獲得は、目標を立て、その目標のための努力を継続し、実現するという自己マネジメント能力向上の成果だと思います。

JABEEによる学習環境変化の影響か、ここ数年、顧問・学生共に課外活動に取り組むための時間的余裕が減少していると感じております。もちろん、学生気質の変化もあります。それでも陸上競技部では「努力を継続できる学生」を目標に活動しています。顧問としても、一人でも多くの善き卒業生を輩出できるよう努力します。在学生、卒業生、教員、保護者の皆様方、今後も学業・部活動に取り組む彼らに応援を宜しくお願い致します。

陸上競技部顧問 吉田 将司

陸上競技部 5年機械電子工学科 小山礼央さんが
「第50回全国高専大会 陸上競技」で優秀な成績を収めました

円盤投・砲丸投入賞

- ・男子円盤投 3位（銅メダル獲得）
- ・男子砲丸投 5位（関東信越地区記録）



■期日 8月29日・30日
■会場 博多の森陸上競技場

第50回
全国高等専門学校体育大会
陸上競技会場



「私は2年生の頃から全国高専大会に出場してきました。そして今年、5年間の集大成として第50回全国高専大会陸上競技の砲丸投げにおいて5位に入賞、円盤投げでは3位に入賞し銅メダルを獲得することができました。これまで指導して下さいました先生方や先輩方、一緒に練習してきた部員の方々に感謝申し上げます。

私は部活動を通して「目標に向かって努力することの大切さ」と「目標を達成する難しさ」を学ぶことができました。どんな困難にも諦めずに挑み続けることで目標に近づくことができ、現状に満足せず向上心を持つことで当初の目標であった夢を実現することができました。また、学業との両立を目指しスケジュール管理を徹底することで部活動と学業のどちらも手を抜かずに行うことができました。

現在、部活動やプロジェクト活動などの課外活動に参加している学生はどんな困難にも諦めず目標に向かって努力し、夢を叶えてください。また、課外活動に参加していない学生は何か興味のある活動に一度挑戦してみてください。そして、より多くの学生が課外活動に積極的に参加し、より活気のある学校になることを願っています。」

サレジオ工業高等専門学校
機械電子工学科 5年 小山 礼央



デザイン学科4年生の佐藤 愛さんが
「 Next Eco Design 展 2015 」において最優秀賞を受賞しました



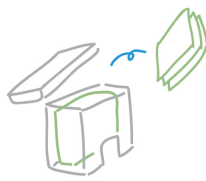
かみがきの使い方



鏡や壁に付いているケースから
かみがきを抜き取る



かみがきを口にのりはみがきをする。少なくなったらリフィルバックで詰め替え
紙石蝕なのですぐに口の中で泡立つ。

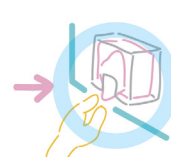
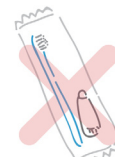


つめかえ機能

かみがきが少なくなったらリフィルバックでケースに詰め替えていく。

旅行用にバックを買い、帰宅後に自宅のケースに補充する使い方も可能。

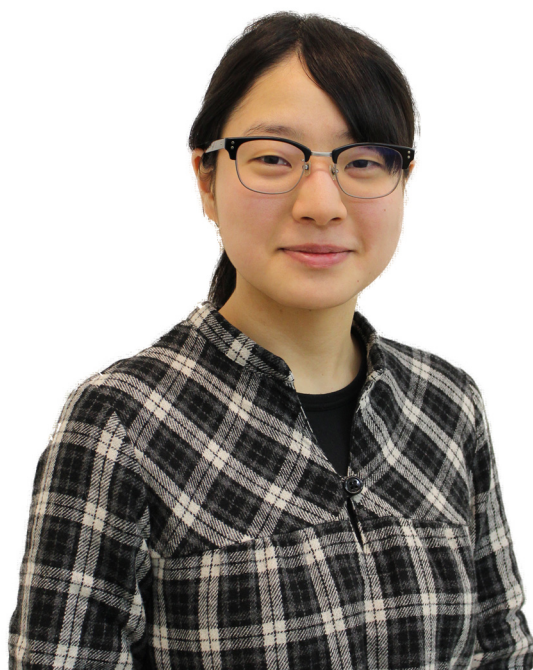
大人数で使用しても衛生的なのでホテル等にかみがきケースを置けば使い捨ての歯磨き粉の無駄もなくなる。



「 Next Eco Design展 2015 」とは

暮らしを見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」を目指して、プロの工業デザイナーとデザイン系学生が協働するデザイン展です。Next Eco Design展は2003年の開始以来今年で13回目。未来を見定め、地球の環境収容力に見合った暮らし方や生き方について考え、自然と調和した持続可能で安心安全な社会の実現を目指してデザイナーとしてできる事、求められる事を思索しています。デザイン系学生から参加者を募り、ワークショップなどを通じてプロのデザイナーによる実践的なデザイン指導を受けながら、エコデザインを学ぶ—その成果として、学生による「エコデザイン」作品と、プロのデザイナーが提案するエコプロダクトが会場に並びます。

<http://www.marucan.jp/exhibition2015/>より抜粋



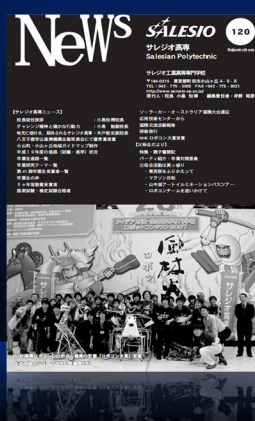
今回取り組んだキッカケは、デザイン学科の石黒猛先生から立体コースの学生にエコデザインワークショップ参加募集の声がかかり、元々デザコンでの取り組みから環境デザインに興味があったので参加を決めました。

外部のデザイン系の学生とプロのデザイナーの方と意見を出し合いながらアイデアを形にしていくのですが、自分が歯磨き粉のチューブの形を改善しようと考えていた所、「中身のペーストの形を変えてはどうか」という意見をいただき、今回の作品である、紙石蝕の歯磨き粉「かみがき」を作り上げる事ができました。他にも担当教員である石黒先生に加えクラスメイトからもアドバイスをいただき、本当に多くの方に協力していただきました。

モデルはアクリル板をレーザーカットし制作しました。応用デザイン実習という授業の中でアクリル板を用いた作品制作を行っていたので、スムーズにモデルを作ることができました。レーザーカッターは学校になかったので、サレジオOBの先輩の紹介で西千葉工作室という工作所にお世話になりました。

外部の学生のレベルの高さを肌で感じ、プロのデザイナーの方に評価していただく緊張感を味わえる貴重な体験をすることができました。少しでも興味がある学生は是非挑戦してみてください。

サレジオ工業高等専門学校
デザイン学科 4年 佐藤 愛



バックナンバーについて

サレジオ高専 学校広報室ではNewsのバックナンバーを管理中です
 現在公式Webサイトで管理中のバックナンバーは
 2005年10月発行の115号から2016年5月発行の136号（本誌）ですが
 現行管理形態では閲覧にパスワードが必要です
 閲覧をご希望の方はNews編集部（ hoshino@salesio-sp.ac.jp ）までご連絡ください

育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 会長 林 紹澄 / 事務局:町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ高専内



— 特集 —

世界に連なるサレジオ同窓生

サレジオ同窓会世界連合 ローマ大会報告 2015.10.3-10.6 近松秀明副会長

サレジオ学校の全世界同窓生の総会が昨年秋にローマで開催され、日本の同窓会連合体である日本連合が組織されて初めての代表団を派遣、本高専からは近松副会長が参加した。以下はその報告の抜粋である。全文は高専HP配下の卒業生の頁に【速報】世界サレジオ同窓会会議(2015/10/02-07)として掲載されているのでご高覧願いたい。

昨年第5回サレジオ同窓会連合世界大会2015(WORLD ASSEMBLY OF PAST PUPILS OF DON BOSCO)に、2015.5に発足したサレジオ同窓会日本連合の一員として参加した。

サレジオ同窓会代表者会議は、6年毎に開催され前回は2010年なので、今回は2016年であるところドン・ボスコ生誕200周年にあたり、変則的であるが2015年に開催された。参加者はおおよそ260名で当初30団体であった。

サレジオ同窓会日本連合の代表団として以下の4名が派遣された。

- 鈴木正夫神父(連合顧問:前サレジオ小中学校校長)
- 矢本浩教(連合理事:大阪星光学院同窓会常任理事)
- 近松秀明(連合理事:育英学院同窓会副会長)
- 立石光洋(連合事務局長:サレジオ学院同窓会常任幹事)

今回の大きな目的は、全世界を代表するサレジオ同窓会世界連合の会長及び執行委員の選出と会則の改正が主体であったが、バチカン・サンピエトロ大聖堂におけるサレジオ同窓生としての早朝ミサ及び参加各国の交流を深めるための交流の夕べなど充実した企画が計画されていた。同窓生やサレジオ家族全体にとって良い刺激となった会議であった。

右上に続く

左下の続き

日程は、2015年10月3日から9日の設定で、前半の10月3日から、6日がローマでの会議が設定されており、後半10月6日から9日はトリノ巡礼となっていたが、私事業務の関係もあり、ローマ会議のみ参加の行程で対応させて戴くこととし、10月2日から7日の行程で対応させていただいた。以下概要を報告する。(日程、会長選出、各国同窓会報告等は高専HP参照)



日本連合代表団(立石、矢本、鈴木神父、近松)

世界連合の会長は、2期目を満了したフランチェスコ・ムチエオ氏(イタリア)にかわり、新しくミハル・ホルト(Hort Michal)氏(スロバキア、37歳)が新会長の任を拝命することとなった。

役員の選出については、プレゼンに続いて投票となり、結果は得票順に決まった。なおこの際、欧州、米大陸(北中南米)とアジア・オセアニアの3代表を選出、アジア・オセアニアはインドのグプタ氏だけのため、同氏が無投票で選出された。規約の改正についても世界標準の1国1票ではなくサレジオ会の管区数に応じてのものとなった。後にローマ本部から報告があると思われる。

いずれにしても国際会議でのやりとりは複雑なものがあり、欧州や米大陸に対して日本のプレゼンスを示すのは難しいことを実感した。

次ページに続く

前ページの続き

大会初日のブリーフィングでは、各国の発表に関係した演出方法、文化交流のタベの進め方などを協議した。また、ミラノ博の件に関しても参加した大阪星光の矢本氏から報告があった。ミラノ博は日本では一部の報道しかないが、かなり盛大に開催されている様で、別称「食の万博」いわゆる地方博覧会であるが、ドン・ボスコ館がオープンしているということでイタリアならではの感があった。

今回大阪星光学院の矢本氏が10月2日に同館のブースで日本発のドン・ボスコの漫画を主体にプレゼンを実施し好評であったとの報告があった。立石氏によると、当該の博覧会に主催者側からサレジオ高専にソーラーカーなど環境技術に関する展示を約2週間参加してほしいとの要請があったと聞いた。(残念ながらその機会はなかった)

今回の矢本氏のプレゼンは、6月頃から矢本氏の側から、サレジオ会本部広報担当のサントス(Br.Ephrem Santos)氏に企画を提案し直前での調整にもかかわらず、サントス氏と主催者の寛大な協力により実現したとのことであった。



— 惜しくも敗れたブラジルのエドワード氏と夫人(交流会) —
エドワード夫人、矢本氏、エドワード氏、近松

第1日目の会議終了後に各国のブースを設け、活動状況の一環の紹介が行われ、国によっては、特産の酒、スナック類をふるまうなどしており、そのブースは人気があった。日本連合はコミックの「コラッジョ(日本発のドン・ボスコのコミック)」を展示し、ドン・ボスコバッジなどを配布するとともに、全員法被を着用して存在感をアピールした。

副総長のチェレダ神父から「日本が会の雰囲気盛り上げてくれている」と称賛をいただいたと鈴木神父から報告があったほか、ムチオ会長ほか要職の方々にお土産の法被を渡し大変喜ばれた。コミックの「コラッジョ」については、翻訳はいつできるのかななどの質問が集中した。また、鈴木神父が準備した扇子も人気で、当日すべて配布し催事の終了間際に扇子がほしいという希望者も多かった。コスタリカなどの、南米、中米代表は踊りなど参加者の注目をひく活動で自国をアピールしており、祖国を大切にするという気持ちには敬意を払いたい。

日本に対して東ティモール、エクアドルからオファーがあった。東ティモールは参加国の中で最大のおよそ40名に及ぶ代表団を派遣し、親日国家でありスロイテル神父が当初の活動に大きく寄与したことからサレジオ高専のことを知っている人もいた。

右上に続く

左下の続き

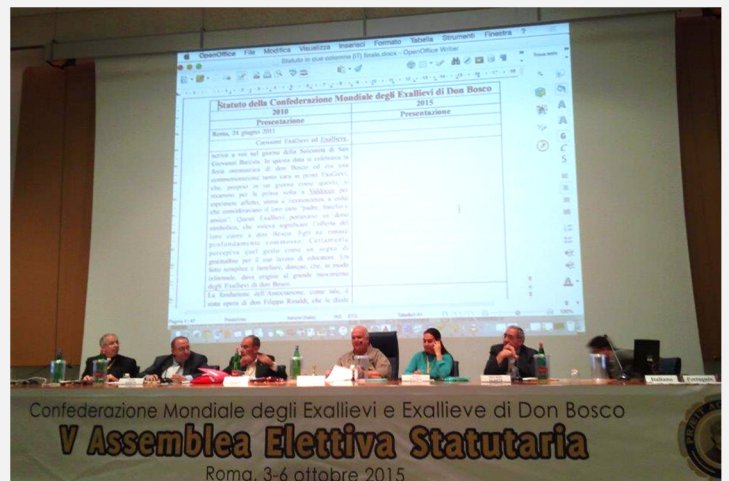


交流会のタベでダンスを披露するコスタリカ代表

2016年10月のアジア・オセアニア大会の開催国であることから日本の代表がくることに大変期待している様で、ユニフォームであるジャケットを頂いた。訪問する方はぜひ当該のジャケットを催しの前後など着用いただくと良いと感じた。

また南米のエクアドルは4日目の会食会において鈴木神父とエクアドルのミルトン・レーモン氏とテーブルを囲んだ際にエクアドルの工業学校とサレジオ高専の間でぜひ技術教育交流を実現したいとの話が展開した。回答にいささか躊躇したが帰国後に学校側に伝える旨を説明した。今後展開する上ではサレジオ高専の学科を具体的に説明し技術教育交流ができる学科があるかというところから始めることになると思う。

今回の渡欧では学校のパンフレット(英文の学校案内も必要)などを用意していなく材料不足であり残念であった。(高専HPIに2008年掲載した英文があるがその後更新していないことと、中南米はスペイン語圏につきそれだけでは十分でないことが難しい点である:編集注)



会則改正審議と投票の様子

会期中に行われた会則改正のプレゼン模様であるが欧米中心でしかもイタリア語、スペイン語が主要言語で英語の同時通訳はひどいものだった。

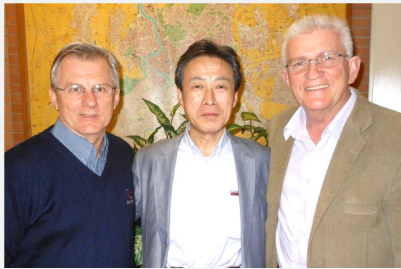
次ページに続く

前ページの続き

矢本氏は、10月6日のミサ出席後、帰国の段取りとなっていたことから、5日の会食後に再度ロビーに参集し、一連の対応の反省今後の課題、それぞれの感想などの意見交換を行った。感想としては、サレジオ会のスケールとドン・ボスコそのもののブランド力が欧州、米大陸などではかなり浸透していること。また信仰が生活の中にとりこまれていること等が率直な感想として提示された。

卒業後社会人となった後の帰属意識の高さと、同窓会にたいする関心の高さなどが話題となった。日本の場合の多くは高校課程修了後に、一般大学に進学するケースが多く、社会人となった後のサレジオ会への帰属意識が薄くなる局面があるといわれるが高専の場合は最終学歴で社会人になり貢献されている人が多い技術の学校であることからその活動が期待できる。

これらに関連し会場のエントランスに掲示されている関連の施設などが書き込まれた世界地図を各校のロビーなどに展開するのも一案である旨を、当方より提案したところ、各位の賛同があった。(杉並の育英にはロビーにあった:編者注)



写真左上「ブラジル代表と」・写真左下「東ティモール代表と」
写真右「フェルナンデス総長と」



会場全景（サレジオ会ローマ本部）

右上に続く

左下の続き

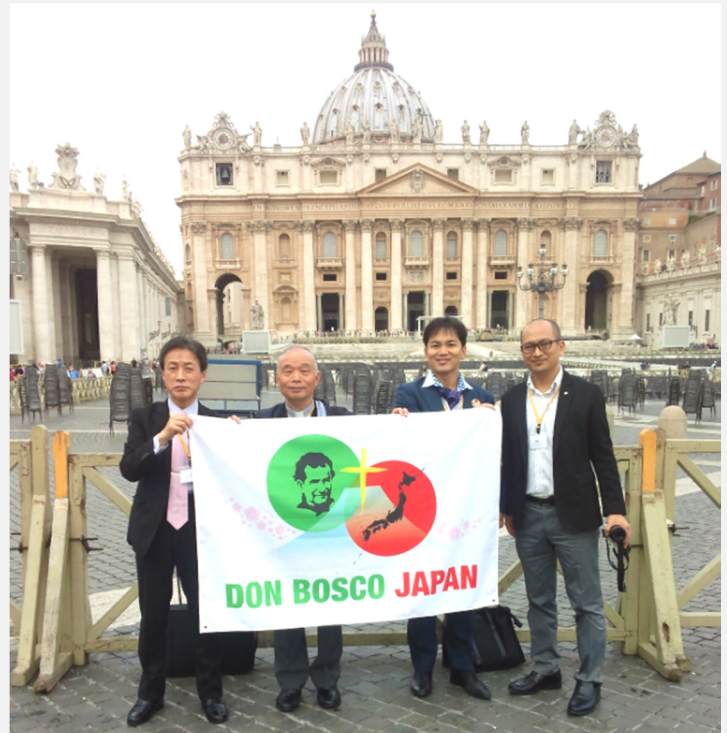


フェルナンデス 総長と新会長を囲んで
近松、矢本、ホルト、フェルナンデス会長、鈴木神父、立石
※ 法被は大人気で「欲しい」というオファーも ※

今回、会議と関係者との交流を通してサレジオ修道会の大きさと、ドン・ボスコの理想を追求した教育関連事業の底の深さを、身をもって体験することができたことは大きな成果であった。

また、同窓会、学校含め、サレジオ修道会の活動、世界同窓会の広範な姉妹校とのつながりを在学中の学生、父母にもアナウンスするとともに、一部から検討要請のあったサレジオ高専との技術教育交流等も、前向きに対応する必要があると考えた。

次回は6年後(場合によっては、3年後にミニセッション開催の可能性もある。)であるが、全体会議とは別に個別の情報連絡体制などの検討も視野にいれ、サレジオ同窓会日本連合の活動をしっかりとしたものにしていきたいと感じた。



バチカン広場正面で記念撮影

次ページに続く

前ページの続き

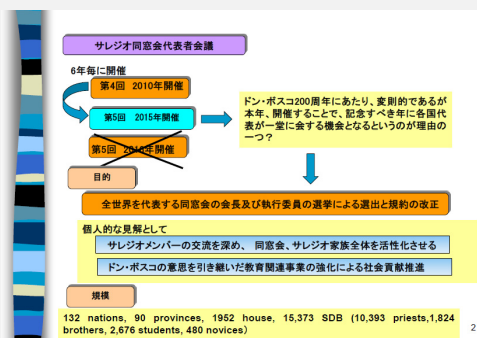


主要な参加者集合写真(ロビー前の階段で)

SHCD2015にて世界大会について報告
PPT画像の一部を紹介
2015.10.31 近松副会長

昨年2015年10月31日同窓会総会後のSHCD2015卒業生の集いの席上、
以下のようなPPTで上記の報告がなされた。

(後日高専HPに掲載予定)



**2016.10サレジオ同窓会アジア連合
東ティモール大会準備会合報告**
講師 辻村 直(国際協力機構JICA専門家)
2015.12.4 林 紹益(会長)

2015年12月杉並サイテックにおいて今年2016年に開催予定の標題大会への参加準備として本校の卒業生辻村直氏(S29ID)が現地JICAとしての豊富な経験から東ティモールの現況について発表があり、同窓会執行役員が出席した。以下にその報告を掲載する。

- ・日時: 2015年12月4日(金)18:30~20:45
- ・場所: サレジオ研修施設サイテック会議室
- ・講師: 辻村直さん(育英学院OG)
- ・出席: 林会長、藤谷、河村、奥山、川島、由良(以上育英)、吉田(連合会長:星光)、大川(事務局)原田(日向)、立石(事務局)、鈴木正夫神父(顧問)スロイテル神父、浦田神父(杉並サイテック)、マルシリオ神父(杉並)

■勉強会主旨

2016年10月、東ティモールでサレジオ同窓会連合アジア大会が開催される。サレジオ同窓会日本連合としても、各同窓会から代表者と多数の希望者に参加いただきたいと考えている。今回の勉強会は、東ティモールで国際協力機構JICA専門家として働いておられる辻村直さん(サレジオ高専OG)に講師役をお願いし、東ティモールについて、また日本のサレジオグループとのこれまでの関わりや課題等について学ぶ。

■講師:辻村 直(つじむら・なお)さん

国際協力機構JICA専門家。育英高専工業デザイン科卒。在学中に学校主催の東ティモール海外ボランティアに参加。2004年よりサレジオ会系NGOの東ティモール駐在スタッフとして赴任、東部地域の漁業普及プロジェクトを実施。ファイバーグラスでのボート作り、船外機のメンテナンス、漁業組合の設立などに尽力。2010年より国際公務員として同国全土での漁業普及等、様々なプロジェクト等に従事、現在に至る。



高専29期デザイン卒 辻村 直さん

右上に続く

左下の続き

■スロイテル神父

ヘンドリクス神父、溝部司教と、東南アジアの人びとのために何ができるかを話し合い、ローマ本部の勧めもあって学生を連れて東ティモールに行くことに。以来20年以上続けている。

東ティモールがインドネシアから独立する大変な時期も、辻村さんと一緒に困難を乗り越えてきた。農業のほかに漁業もできるように支援することを考え、ヤマハ発動機の協力を得てボート製造と漁業を教えることに。ボート造り・漁業について、辻村さんも一緒に学び、現地の人に教えてきた。

資金面について役人の不正など困難な状況も。生活用水の問題が深刻。水の盗難もある。寄付された130枚のソーラーパネルを活用して水を高地に汲み上げて配給するシステムを作るなどしている。

■辻村さん(東ティモールの概要)

東ティモールと日本は時差なし。ティモール島の西半分はインドネシア領(旧オランダ領。西側にも飛び地で旧ポルトガル領の東ティモール領がある)。長野県ほどの大きさに160万人、約30の部族とそれぞれの言語があり、公用語はポルトガル語とテトゥン語。

人口の半分以上が25歳以下。生産年齢人口の60%が失業。多くはヤシの木で作った家に住む。1701年ポルトガル領に。1859年オランダと領土分割。1942年から3年間日本が占領。1976年インドネシアの州として併合される。1999年国民投票により東ティモール独立。紛争、混乱。国連も関与が困難な状況。その過渡期にボランティアにかかわる。

・育英海外ボランティアについて

育英高専在学中、スロイテル神父に相談すれば東ティモールに行けるという「うわさ」を聞き相談。「南の島にボランティアに行ってみよう」と言うとOKに。滞在期間は約1か月。

「育英海外ボランティア」は教員・在校生・同窓生が参加。「現地の人と一緒に状況を確認、一緒に働く」がモットー。従来は技術系ボランティアだったが、近年は他の青年グループ(望洋庵)と合同実施のため軽作業のプログラムとなっている。

現状は生活用水確保が困難。水道普及率は20%程度。子どもたちも川など水場に行くと水汲みに明け暮れる日々で対策として地下水を汲み上げるシステム作り。現地の人と風車を作った。

これから生活用水の確保。衛生面の改善。重労働の緩和。子どもの就学率向上が必要。体験として貧しいけれど笑顔いっぱいの子どもたち。真剣に働くティモール人。食・文化・人種を超えて味わった感動と友情がそこにあった。

ボランティア後、どうしたらこの事業を持続できるか考えた。専門性、語学力を高める。貧困打開、平和構築。国内で資金集め、チャリティーコンサート、フリーマーケット、バザー、平和を祈りつつ。NGOスタッフとして働き、JICA専門家、国際公務員として現在に至る。

サレジオ同窓会日本連合関連報告

2015.11.23 DB200閉幕ミサ

当日カトリック東京カテドラルに全国からサレジオ関係者(修道院、教会、学校など)が司祭40名余、信徒1500名余という参加者で盛大に挙行された。

カテドラル関係者からは近年このような多数の方が参加したイベントはなかったというほどの規模でサレジオ会のパワーを見つけた。同窓会からも会長始め執行役員有志が裏方として参加し協力した。



2015.11.23 DB200閉幕ミサ
集うサレジオ家族(DB風16号より)

2016.1.19 横浜会合

宮崎会合にむけて準備会合として新横浜国際ホテルで開催、全国から日本連合の役員が16名、サレジオ会から山野内管区長をはじめ4名、事務局2名の総数22名が参集した。育英学院からは近松、奥山の両副会長が出席した。

現況報告

1. サレジオ同窓会日本連合の同窓生数(在校生数) 2016年2月の概数

サレジオ同窓会日本連合:45,200人(4,160人)
内訳は、

- ・育英学院(町田):13,400人(770人)
- ・日向学院(宮崎):11,000人(880人)
- ・大阪星光学院(大阪):12,300人(1,230人)
- ・サレジオ学院(横浜):6,900人(1,100人)
- ・サレジオ小中(小平):1,600人(180人)

2. 2015年度主な活動

- ・2月 準備会合(サレジオ学院)
- ・5月 連合設立役員会(サレジオ高専)
- ・6月 広報グループ会合(サレジオ会管区長館)
- ・6月 世の光応援団(芝浦工業大学:東京星光会主催の若手同窓生のための勉強・交流会)
- ・7月 ウニオーネ・サレジオ同窓会連合の合同ミーティング(星美学園)

右上に続く

左下の続き

- ・10月 サレジオ同窓会連合世界大会日本連合代表团派遣(サレジオ会ローマ本部)
- ・11月 ドン・ボスコ生誕200周年閉幕イベント&ミサ(東京カテドラル)
- ・12月 東ティモール勉強会(杉並サイテック)準備・交流会。22人参加)
- ・12月 世の光応援団(芝浦工業大学)

16年

- ・1月 サレジオ家族合同評議会(調布サレジアン・シスターズ管区本部)
- ・1月 プレミーティング(新横浜)
- ・2月 連合役員会(日向学院)



宮崎準備会合(横浜)

3. 今後の展望(宮崎での検討案)

山野内管区長より、サレジオ家族年間目標2016(ストレンナ)を紹介。聖霊にゆだねて冒険してみよう! イエスと一緒に。」サレジオ会員は同窓生と共に「Adventure 冒険」に出る1年としたい。

With Jesus let us Adventure in the Spirit together!

中期計画(3~5年)

①交流・連携の推進(案)

- 1-1) 広報で同窓会連合を周知。
パンフレットやホームページ制作等。
日本・世界の広がりを周知。
- 1-2) 全体会合の間隔を短くし、具体的な活動を積極的に進めていく。
- 1-3) 集いやすいイベントを繰り返し、互いの同窓会を周知する。
- 1-4) 数年に1度大きな会合を開き、広く参加を呼びかける。
- 1-5) 集える場(OB 経営の飲食店等)の情報収集・共有。
- 1-6) 国内外サレジオ活動支援「ドン・ボスコ基金」の運営支援。

②在校生交流の支援(案)

- 2-1) サレジオの日本・世界のネットワークを在籍中に周知・育成し、若手同窓生の活性化をめざす。
- 2-2) 日向学院「アジア高校生サミット」を生徒・同窓生の交流の機会に。

次ページに続く

前ページの続き

2-3) 生徒代表セミナー・交流会／スポーツ交流会／
合同文化祭(音楽演劇等)を順繰りに開催。

③若い同窓生の支援(案)

- 3-1) 同窓会青年部の検討(世界連合では18～30歳の同窓会青年部=GEXとその代表者を配置)
- 3-2) 各同窓会の枠を超え、若者支援・進路相談・勉強・交流会等を展開する。
- 3-3) 16年10月の東ティモール大会に20代の若い同窓生を派遣することも検討したい。
- 3-4) DBVG ドン・ボスコ海外青年ボランティアへの参加を呼びかける。

④研修・研鑽(案)

- 4-1) ドン・ボスコの精神を学ぶ勉強会。
- 4-2) 16年10月同窓会アジア大会@東ティモールに積極的に参加、準備会を開催。
- 4-3) サレジオ会学校教職員の交流・研鑽支援。

2016.2.27-8 宮崎会合(連合役員会)

2月27日宮崎において日本連合宮崎会合が開かれ、育英学院からは林会長、近松副会長、河村副会長が出席し、1.19横浜開催の議案について熱心に討議された。その報告等については次号で紹介したい。

2015年度 専攻科修了式・本科卒業式挙行 専攻科14期修了生、本科49期卒業生

2016.3.15 卒業式(橋本社のホール)、謝恩会(多摩センター京王プラザ多摩)

3月10日には高専において卒業生対象に同窓会に関する紹介を行い同窓会年報2016を配布した。続いて3月15日には肅々と式典が挙行された。ことばの祭儀に続いて次のように修了・卒業式が進められた。

- ・開式・国歌斉唱
- ・専攻科修了証書授与10名
- ・学位記[学士(工学)]授与10名
- ・本科卒業証書授与124名
- ・優秀賞4名、優等賞4名、努力賞8名
- ・卒研賞12名、皆勤賞15名、精勤賞34名、功労賞22名
- ・校長式辞
- ・来賓祝辞 議員(国会、都会、市会)、父母会長
- ・送辞(在校生代表)、答辞(卒業生代表)
- ・校歌斉唱・送る歌「旅立ちのうた」

こうして卒業生は巣立っていった。



証書授与式

右上に続く

前ページの続き



ことばの祭儀: 祈願

引き続き謝恩会では卒業を祝して祝辞、乾杯と続き本科生にとっては卒業できた喜びに顔をほころばせ、保護者の皆さんにとっては我が子が進学、就職と社会に出て行くことができてホッとする様子がかいま見えた。謝恩会では同窓会長の挨拶、クラスと同窓会を繋ぐ各クラスの評議員が紹介された。

AD 高橋 怜亜 ・ 千葉 直樹
EE 木下 風幸 ・ 瀬下 拓也
ME 佐々木 元気 ・ 小山 輝
CS 鈴木 裕也 ・ 古川 泰地

早速、今秋10月29日(土)に評議員の皆さんの協力でSHCD2016が開催されるので再会を期した。



謝恩会での校長祝辞



同窓会長による評議員紹介

SHCD2015スナップ(2015.10.31)

議案は135号既報、写真は高専HPに掲載予定である。



2015-16 定期総会



SHCD2015集い開宴

グラフィックの会 勉強会報告(2015.11.14)

IJの色校正を学ぶ
育英グラフィックの会

育英工業高等専門学校(現・サレジオ工業高等専門学校)の印刷科の卒業生の会「育英グラフィックの会」(杉原文治会長)が、2015年11月14日に開かれ、東京・両国のジャパン・スリープのデジタル印刷機を見学した後、飯田橋のサカタインクスで講演会を行った。また懇親会では、サレジオ高専のデザイン科の5年生35人が合流し、印刷とデザインを話題に交流を深めた。

色校正に活躍
ジャパン・スリープは、枚葉インクジェット(IJ)デジタル印刷機「JetPress」を活用している。当初、同社の静岡の工場に導入した。その時は初期のタイプであり、印刷機としての技術課題はヘッドからソフト的な文字の質、色再現まで多数あったという。そのためメーカーと試行錯誤で使いながら、問題点を解決していった。



見学会で出力物の特徴を説明する杉原文治会長(ジャパン・スリープ)

2014年10月、現在の両国のスタジオに型に入れ替える形で移設。今では、CDパッケージを中心とした、色校正の仕事にフル稼働中とのことである。2時間で47台の仕事をこなすときもあったという。

色校正としてのIJの優位性
セミナーは、「現場から見たデジタル印刷の実力」としてジャパン・スリープの市川洋平氏から、「インクジェットプリンターの付加価値向上」としてサカタインクスの持田真梨氏から次の話を聞いた。

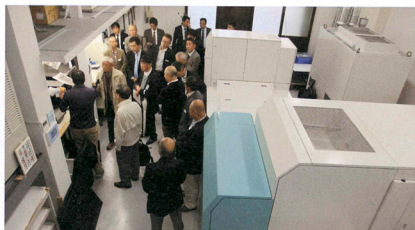
市川氏は、同社の色校正の状況を説明した。現在の機器は、大判IJプリンター、枚葉IJ印刷機、トナー型、LED-UV本機校正を使い分け、レーザー熱転写式と銀塩印刷紙製の校正機はなくなった。枚葉IJ機は本機校正(LED-UV)と併用しているが、生産能力が高いので、将来的には小ロット印刷物の生産を目指す。枚葉IJ機のCMSの日常管理は、4点グレーのLab値で管理している。面付け台数から考慮する出力工程の時間は、圧倒的に枚葉IJ印刷機が



講演する市川洋平氏(同意生)

早い。IJの優位点は、大判IJプリンターは、材料コストが安価、廃液が出ない、色域が広い、出力サイズが大(面付け有利)。枚葉IJ印刷機は、刷版不要、損紙がない、本紙が可能。IJ機はともに、ΔE値はあくまで参考にし、最終調整は見た目で合わせている。

持田氏は、色校正の分類やIJプリンターの種類、カラーマネジメントを解説した。その中で武蔵工業製プリンター用IJインク「MPインク」は、メディアを選ばない特長がある。IJでの校正出力は増える、多用途で活用して利用価値を高める、品質要求に応じた機械の選定が重要、カラーマネジメントはより重要になるとまとめた。(編集部N)



特徴や絵柄を実感した見学会

高専24期デザインクラス会(2016.12.30)



育英グラフィックの会案内から

育英グラフィックの会(セミナーと懇親会)

今年も恒例の標題の会が開催されます。是非 P_PA.PB、GA.GB.GE.VE卒の皆様のご来場をお待ちします。職場の先輩、後輩、知人、友人にも誘い合ってご参加ください。

テーマ「印刷会社から見たデジタル印刷機のお役立ち活用術」

開催日 2015年11月14日(土) 先着50名

集合場所

両国会場 (株) ジャパン・スリープ Kスタジオ 12:30開場

飯田橋会場 サカタインクス(株) 会議室 15:00〜

懇親会 会場当日ご案内 会費 4000円(当日徴収)

詳細情報

育英学院同窓会 BBS(高専 HP>卒業生>同窓会>掲示板)

FB(育英グラフィックの会) ML(育英同窓会 ML)

高専 HP「育英グラフィックの会」高専 HP から卒業生の頁へ

http://www.salesio-sp.ac.jp/graduates/fkuei_graphic_party/index.html

株式会社ジャパン・スリープ
Kスタジオ



東京都墨田区両国 3-21-11
JR 両国東口 3分

サカタインクス東京本社



東京都文京区後楽 1-4-25
(日教館ビル)
JS 飯田橋駅東口より6分

第10回育英ファミリーの集い(2016.3.26)



溝部脩師帰天(2016.2.29)



2.29この日育英学院理事長で高専初期(4-9期)に独語、電気主事を務められた師が京都にて逝去された。司教という高位聖職者となっても生涯を青少年とともにあつて4月9日には東京で追悼ミサが行われた。



高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

学 校 広 報 室
星 野 正 登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 070 - 2196 - 5135 】

なお、本校に来校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

